

緑園連合 News

— 防災集 別刷版 —

震度7を観測した熊本地震発生の日から3か月経過し、地震の規模や、これまでになかった地震の形態・揺れ方、被害の状況等について、各方面で詳細な検討がなされ、その結果が徐々に明らかになってきています。一方、緑園地区としても、地域防災や各自治会での取り組みの他、各家庭での地震への備えが増々重要であることが再認識されました。

そこで、地域の防災の専門家やリーダーにご意見をいただくとともに、緑園西小学校地域防災拠点訓練及び、緑園二丁目いっとき避難場所での防災訓練について紹介いたします。

◆◆ 熊本地震から思うこと ◆◆

泉区災害ボランティア連絡会 副代表 江尻哲二(6丁目在住)

熊本地震の発災から3か月が経ちました。震度7を観測する地震が4月14日夜および4月16日未明に2回も発生したほか、その後も震度6強、弱を含む地震が続き、さらに6月20日からの梅雨前線に伴う大雨により、ご存知の通り大きな被害を被り、いまだ復旧に至っていませんし、まだまだ長い時間が掛かると思います。

避難所での生活を強いられておられる方も大勢おられ、公営住宅や民間アパートへの引越し、仮設住宅・みなし仮設住宅への入居などにより、少しずつ日常生活を回復していくことが予想されます。今回の地震で気になったことを2、3点、申し上げたいと思います。

<耐震診断・耐震補強>

1981年に改正された通称「新耐震基準」、さらに、木造住宅の場合は2000年と2006年に耐震性が高まるように改正されています。しかし、その基準で建築された建物が、今回の地震では全壊、半壊どころか倒壊するものも出ています。それは震度7の地震動を2度も受けたことが大きな原因だったようです。もともと震度6強の揺れに対して、1回目の地震で「建物が崩壊しないこと」が目安だ、ということのようです。

緑園地域も開発されて来年で30年。1983年以降の建物です。中には耐震診断、耐震補強が必要な時期を迎えているものもあるのではないのでしょうか。

<生き残りの確保と安否確認>

地震の揺れで死亡、ケガをしない準備をお願いします。そして、非常用トイレ・水・食料・寝具・衛生用品・生活用品などが重要です。3日分というのが最低限の目安。災害発生から3日間は人命救助が最優先。首都直下型地震が生じた場合は、自衛のためにも、もっと多い備蓄が必要です。

家族の安否確認は欠かせませんね。災害伝言ダイヤル171でも、携帯電話会社の災害伝言板でも、もしくはLINEやFacebookなどのインターネットサービスでも、使えるサービスはなんでも良いです。ただ、非常時に普段できていないことを、いきなり使おうとしてもできません。自然災害は待ったなしです。家族との緊急連絡先を確保し実際に使ってみる、という訓練をぜひ行ってほしいと思います。

<「困りごと」の声を>

人命に係ることは消防など公的な救援の手が入ります。しかし、私的なことには公的な支援は入りません。それを補うものの一つが、災害ボランティアセンターの役目で、被災者が「日常」を取り戻すための手助けをします。

しかし、ボランティアの依頼方法が分からなかったり、依頼するのを遠慮されたり、我慢されている方が、過去の大被災地でも、熊本でも多くいらっしゃいます。このような方々へのサポートができるように、熊本では多くの地域で、地域の方々がその「困りごと」を各戸に訪問し、聞き取りをして、ボランティアセンターに繋げています。

困ったときはお互いさまという気持ちで、「困りごと」は声に上げ、助け合いましょう。隣近所での助け合いができないことは、自治会、地域防災拠点に、それもかなわない場合は、ボランティアセンターに依頼をし、ボランティアの力を借りましょう。



倒壊した家屋

◆◆ 緑園キズーナ 情報交換会について ◆◆

緑園連合自治会 防災・防犯部長 田村守雄

災害発生時に、特定された地域支援者が要援護者の安否確認と避難誘導を行える自治会内の体制づくりを目指した、緑園キズーナ委員会は、三か年の活動期間を経て、設立時に定めた目的を概ね達成したとの判断の下に、平成27年5月16日の定時総会を以て活動を終了しました。

活動終了総会において、今後に必要な対処を連合自治会に委ねる旨要請があり、これを受けて、防災・防犯部内に「緑園キズーナ情報交換会」が設置され、現在に至っています。

平成27年度は、9月19日、3月19日の2回情報交換会が開催され、各自治会から約20名の関係者の参加を得て、情報と意見の交換が活発になされました。平成28年度も継続実施の希望があり、9月17日、3月18日の2回開催の予定です。

高齢化が顕著に進行しつつある緑園が、今後大災害に襲われた際、災害弱者たる要援護者が最も頼りに出来るのは、近隣住民による助力・地域支えあいにある事は、度重なる大地震で明白になっています。各自治会の防災体制の中にキズーナが組織的・継続的に組み込まれ、役に立てる状況にあるかは、不断の点検・訓練が必須と考えます。

各自治会、関係各位のご尽力を期待します。

◆◆ 緑園地域防災訓練ルポルタージュ ◆◆

<緑園西小学校地域防災拠点訓練>

去る2月14日(日)、緑園西小学校地域防災拠点運営委員会(杉山昌樹委員長)主催、地域防災拠点訓練が行われました。夜来の強い風雨が朝まで残り、開催が危ぶまれましたが、「地震は時を選ばない」ことから、予定通り行われました。緑園西小学校、泉区役所、泉消防署緑園消防出張所、消防団等のご指導、ご協力をいただきながら、拠点開設から順次訓練が行われました。



避難者受け入れ訓練



プライバシー保護



情報伝達訓練



トイレ対策訓練



救出訓練



応急処置訓練



救護訓練



炊き出し訓練

<緑園二丁目いっとき避難場所防災訓練>

緑園二丁目自治会(防火防災部)主催防災訓練が、5月15日(日)、いっとき避難場所に指定されている東田谷公園にて実施されました。当日は、泉消防署緑園消防出張所の職員の方のご指導、ご協力をいただき、初期消火訓練、放水訓練、AED訓練、簡易タンクを用いた負傷者搬送訓練、倉庫内の資機材や備蓄品の点検などが行われました。



資機材の点検



初期消火訓練



放水訓練



AED訓練